

【フランスの保育学校】

フランスには、3歳以上6歳未満の子供を受け入れる保育学校があります。

保育学校への入学は義務ではありませんが、初等教育の一課程として位置づけられていて、ほとんどの子供が入学します。

保育学校の就業時間は、午後8時半から午後4時半までですが、学校内に託児所が設けられていて、就業時間外の託児を引き受けることが多いようです。

保育学校は、教育省が所管しており、小学校教諭と同じ資格を有する国家公務員が教員になっています。そのため、保育所というよりは、教育機関としての性格が強く、授業時間も、午前・午後各3時間というように充実しています。

この保育学校の学費は無料であり、フランスでは、この保育学校から大学に至るまでの公の教育費が無料であるため、教育関係費用の家計への負担が軽くなっています。

子供を産んだり育てるにあたって、日本の親たちが不安に感じたり心配に思う最大の理由の一つは、相当な金額にのぼる教育費の問題だと思われます。この点、フランスでは、無料の保育学校があり、その後も大学まで無料の学校に通わせることができるため、親たちは教育費について心配しないですむことになります。

長い視点からしてみると、将来の学力の格差につながりやすい幼児教育が、フランスのように国内一律に無料で行われることのメリットは、家計負担の軽減のみならず、国の将来を担う人材を育成するという国益の観点からも、大きな意味があると考えられます。

なお、フランスでも、地域によっては、日本と同様、働く親などが子供を保育園等に預けたくても預けられない待機児童の問題がありますが、3歳以上の子供については保育学校に入れることができるため、実際に問題になるのは3歳未満の子供についてであり、子供を保育所等の施設に預けることができない場合は、保育ママなどを利用することになります。